



4403

勸農義社概則



114
A 1083



勸農義社概則

第一章

社主義

大正十一年四月
侯爵郵寄贈

第一條 本社ハ農事振興ノ勸奨ヲ本旨

トス

第二條 本社ハ直接ノ事業ヲナサズ

業者ノ資力ヲ補助スヘキ貸附金ヲナ

ス 但時宜ニ因リ第二十九條第二部ノ

業務ヲ直接ニ執行スルヲアルヘシ

第三條 本社ハ補助金ヲ貸與シタル事

業者ニ對シ補助金貸與中ハ其事業ヲ

監督スルノ権利ヲ有スルモノトス

第二章

社ノ年限

第四條 本社ハ農事ト俱ニ永遠繼續スルモノトス

但シ初年ヨリ十五ケ年間ヲ以テ第一期トシ順次之レニ倣フヘシ

第五條 社員ノ退社義集金ノ割返シハ

該期ノ終ニナスモノトス

但シ入社及テ義指金義集金ノ増加ハ期中有志者ノ随意クルヘシ

第三章

社ノ位置

第六條 本社ハ同盟社員ノ興起スルニ

随ヒ漸ク盛大ナラシメ其東京ニ置ク

モノヲ東京勸農義社ト称シ各地方ニ

設クルモノヲ某(地名ヲ)勸農義社ト称

ス

第七條 此社則ニ要領ニ背馳セサル以

上ハ各地其適宜ニ斟酌シタル細則ヲ

設クルヲ得ヘシ

第四章

資本ノ性質

第八條 本社ノ資本金ハ有志者ノ義指金及テ義集金トニ成リ各社其經濟ヲ

異ニス

第九條

義捐金ハ多少ヲ論セス之レヲ

納シ領收券ヲ發ス義集金ハ一口拾圓

ト定メ証券(記名無)ヲ發行ス毎年一月

七月會議ヲ開キ會計ヲ詳報シ義捐金

ハ之レヲ永久社金トシ義集金ハ純益

金ヲ其証券金高ニ配当スルモトス

但シ義集証券讓渡及ヒ賣買ハ券主

ノ意見ニ任ス

第五章

社員ノ性質

第十條

本社ハ誰人ヲ問ハズ苟モ邦本

ヲ鞏固ナラシムルニ熱心ニ社則ニ從ヒ

應分ノ義務ヲ尽サントスル者ハ悉ク社

員タルヲ得然レモ義捐金五圓以上乃チ

義集金十圓以上ヲ出セル社員ニ限ラサ

レハ第二十二條第二十三條ノ權利ヲ有

セサル者トス

但シ單ニ義捐金ヲ出スニ止マリ其出

金五圓以上ノ者ハ之レヲ賛成社員

ト稱ス

第六章

役員並職務擧げ

第十一條

本社役員及ヒ其職務ヲ定ムル

凡ノ如シ

社長

一人

本社ノ役員ヲ統轄シ規則ニ從テ社務ヲ總理シ百般其責ニ任ス

幹事補以下ノ進退ヲ專行ス

議案ヲ議決シ附ス

一人

副社長 社務ヲ參判シ其責任社長ニ與ク

幹事

自一等至三等事務ノ繁閑ニ應テ増減ス

社長ノ分課ニ應テ業務ヲ幹理ス

幹事補

自一等至五等事務ノ繁閑ニ應テ増減ス

幹事ヲ助ケ其及ハサルヲ贊補ス

主計何名

幹事中ヨリ撰定スハニ

會計ヲ司リ出納ヲ詳明シ定期以

算書ヲ調成ス

筆算生何名

増減スノ繁閑ニ應テ

社長ノ命令ヲ奉シ分課ニ從テ筆算ヲ

事トス

第十二條

社長副社長幹事主計ヲ撰奉

スルニハ投票者數ヲ以テシ幹事補等

算生ハ社長ノ特撰ニ據ル

第十三條

本社役員ハ滿五年ヲ任期ト

ニ毎半期其半ヲ改選ス

第七章

會議并議負撰挙

第十四條

社員中ヨリ議負ヲ選舉ス議負ハ會議ヲ開ヒテ業務ノ得失利害ヲ議定ス

第十五條

議負中ヨリ復撰シテ若干名ノ常議負ヲ撰定ス

第十六條

常會議ハ會計出納ノ報告書ヲ検査ス

第十七條

議案ハ社長之レヲ發ス但シ議負中建議案アルハ五名以上ノ贊

成者ヲ得ニ之レヲ議題トナスヲ得

第十八條

會議ニ常會アリ臨時會アリ議負ニ常議負アリ議負アリ

期ヲ定メテ會スルヲ常會トシ不時ニ會スルヲ臨時會トス

常會ハ総議負會同ニ臨時會ハ常議負會同ス

第十九條

議負ハ若干名ヲ以テ定會トスニ常議負ハ若干名ヲ以テ定會トス

第二十條

議負ハ選舉組合ヲ定メ投票ヲ以テ選定ス議負常議負共滿五ヶ年

ヲ一期トシ毎半期其半数ヲ改選ス当

初半期ノ解任ハ抽籤ニ依ルヘシ
但シ議負常議負共再選セラルルヲ
得

第二十一條 會議ハ社長之レカ議長タル
ヘシ

第八章

社員ノ權利責任

第二十二條 社員乃チ賛成社員ハ本社ノ
役員議負ノ選被選權ヲ有ス

第二十三條 社員乃チ賛成社員ハ何時
ヲモ會計出納ノ帳簿ヲ閲覧スルヲ
得ヘシ

第二十四條 義捐金千圓以上差出ニタル
賛成社員乃チ義集金二千圓以上ノ証
券ヲ有スル社員ハ臨時會ヲ請求スル
ノ權ヲ有ス

第二十五條 一人ニシテ義集金十拾圓以上
ノ証券ヲ有スル社員二十名以上連署
スル中ハ臨時會ヲ請求スルノ權ヲ有
ス

第二十六條 義捐金貳拾五圓ヲ出セル賛
成社員ハ義集金五拾圓ノ証券ヲ有ス
ル社員ト其權利ヲ均フス

第二十七條 本社ノ員ハ有限責任トシ本
社萬一ノ損失アルニ義集金ニ止ノ各
自ノ他ノ財産ニ及ハサルモノトス

第九章

社ノ業務

第二十八條 本社ノ業務ハ實地ノ得失緩
急ヲ考量シ其緊要ナルモノヲ先キト
シ漸次其資力ヲ補助スヘシ

第二十九條 事業ノ部門ヲ分テ左ノ數類
トス

第一部

第一類 荒地起復原野開墾

第二類 牧畜

第三類 種子苗ノ選擇及配種

第四類 桑茶及有益著大ナル植物
ノ栽培

ノ栽培

第五類 溝洫樋堰溜池ノ修理

第六類 農法ノ改良肥料ノ製造

第七類 肥料及農牛馬買入

第八類 製茶製糖絹綿ノ紡績機
織

織

第九類 養魚植貝捕魚採藻

第十類 山林栽植

第十一類 第一類ニ係ル道路橋梁及堤防排水

第二部

第一類 農學生徒教育

第二類 内外農事通信

第三類 農業雜誌及報告

第四類 農具製作

第五類 農字舎密

第六類 農談會及共進會

第七類 精農賞典

第二十條 第二十九條ニ属スル各類ノ業

若ヲナスモノハ年三米ヨリ輕カラ

ス一割ヨリ重カラサル低利ヲ以テ貸

付金ヲ行ヘシ若シ或ハ利米ヲ附シ

難キ事業ト認ムルモノハ無利足貸附

ヲ行フアルヘシ俱ニ不_地産_{地及宅}

証公債ノ抵当ヲ徴スヘシ

但シ資本金ノ都合ニ依リ貸金ノ多

寡ト前後トヲ定ムルハ第二十八條

ノ旨ニ從フ

第三十一條 第二十九條ノ貸附金ハ二種ニ

分テ其一種ハ年賦償還ノ法ヲ設ケ其

一種ハ定期償還ノ法ニ因リ俱ニ其証
書ハ普通ノ法ニ拠ルモノヲ徴スヘシ
第三十二條 本社ニ於テ施行セル業務一切
ノ景況及ヒ諸決算ハ毎歲十二月六月
兩度ニ之レヲ調成シ常會議ヲ開ヒテ
議員ノ檢査ヲ了シ之レヲ社員ニ報告
スヘシ

